

サロベツだより



サロベツ学会会報 No. 4
2013年8月

目 次

辻井先生を偲んで

稲垣順子、村元正己、神谷光彦、井上 京、高田雅之、高木健太郎、高橋英紀	1
1. 会員からのたより	
(1) いっぱいの水 (3)	橘 治国 5
(2) サロベツへの道 (2) シモエレコロベツへの道	高橋英紀 6
2. 活動報告	
サロベツ湿原保全ボランティア活動	高橋英紀・小川 巖・神谷光彦 8
3. 会議報告	
(1) 総 会	1 0
(2) 事業報告・事業計画	1 1
(3) 決算報告・事業予算	1 3

表紙の写真

上：水の中の微生物を高性能顕微鏡で観察するサロベツの子供、未来の科学者か。

下：サロベツ湿原保全活動で協力したインドネシアからの留学生、若い科学者たちと日本人ボランティアのみなさん。

編集者より

この号も予定期日より大分おくれた発行となりました。申し訳ありません。「会員だより」が2件で、かなりさびしい状況です。この部分をどのように充実させるか、皆様のお知恵をお借りしたいものです（高橋英紀）。

辻井達一先生を偲んで

(辻井先生には多くのことを教えていただきました。会員からの思い出文集)



ツルコケモモの実と花
(神田長春写真集より)



辻井先生のこと

サロベツ原野に住む私は事あるごとに先生の著書『湿原・成長する大地』を開いては読み、開いては読み、していました。そこには私の故郷である釧路湿原のこと、今住んでいるサロベツ原野のことが書かれています。私淑という言葉どおり、私はその著書を通し先生のことを思っていました。本が相当くたびれボロボロになった頃、初めて先生が法昌寺にいらっしゃいました。玄関でニコニコしながらツルコケモモの枝を「どうぞ」と手渡してくださいました。それからは時々お立ち寄りになされました。先生は専門外の末端の私にでも丁寧にわかりやすく湿原のことを教えてください、また湿原以外の楽しい話もしてくださいました。私が口琴収集していることを憶えていらして旅先での口琴情報がお便りで届くこともありました。先生手作りのムックリが送られてもきました。早速パンケ沼で奏でようとしたがヤスリがけが充分ではないようで唇にあたる部分が痛くて音が出るまでにはなりません。しょうがなく自分でヤスリがけをして仕上げました。先生は「合作になりましたねえ」と大笑い。本当にたくさんの思い出と学びを与えてくださいました。先生から頂いたお便りや品などを入れてある大切な箱「辻井箱」を今はまだ開けられずにいます。

稲垣 順子

辻井先生の思い出

37年前に町（豊富）で田舎料理「花むら」を開店、いつの頃からか辻井先生が豊富に来るたびに寄るようになり、色々とお話を聞かせていただきました。ある時、北欧で食すると言う野草の種をお土産にいただき、翌年蒔いて作った野草は香りが強く、日本人には受けませんでした、イギリスのお客には大受けで、人種の違い感じました。

その後も、エゾカンゾウの花や、タチギボウシの若茎などの料理を、お出ししていましたが、料理の参考にと中国のキスゲ類の花の乾燥品（金糸菜）などを、料理の参考にとお土産にいただきました。

そのほかにも色々とお話を聞きましたが、最後に自然再生に関して、ある事の提案を先生に相談したところ、「そんな事は直ぐやれば良いのに、ヨーロッパなら即決だが、日本では検討、調査で先送りされる」と言われたのが、心に残っています。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

村元正己



エゾカンゾウ（上）とタチギボウシ（下）、筆者撮影





写真 チベット高原での辻井先生



写真 辻井先生と奥様 1991年5月7日クチンの屋台にて（撮影：井上 京）

チベット高原の調査

昭和63年7月チベット高原で1ヶ月間の一緒に泥炭地調査の調査をしました。使い捨てライターがおみやげとして有効だった頃です。大阪空港でスーツケースから取り出されましたが、辻井先生は Security Check のシールをきれいに剥がして入れ直し、受付カウンターに渡したのは感心しました。

調査地は4000mの峠を越えたところです。初めて経験するかもしれない高山病に恐れをなしていましたが、先生はネパールで5000mを経験したので絶対大丈夫と言っておられましたが、最初にダウンしたのは先生でした。

調査では色々なことを丁寧に教えていただきました。そして、北京の全聚徳の北京ダック、ごちそうさまでした。
神谷光彦

新しものの好きの先生

辻井先生とは「新しもの」で競っておりまして。いつも私のほうが悔しい思いをしていましたが。たとえばポータブルのGPSロガー。もう20年ほど前でしょうか、ソニーが日本では初めて、ポータブルのGPSロガーを発売しました。現在では手のひらにも隠れるほどの大きさに2〜3万もあれば購入できるようになりましたが、出始めのその製品は弁当箱くらいの大きさに、値段も二十万円ほどしたと思います。私はこれが欲しくて欲しくてたまらなかったのですが、ある日、先生の研究室にうかがうとそれがあるではありませんか。あまりにも悔しくて、先生に貸して下さいとは言えぬままでした。

針のいらぬホチキス。これは私が先に見つけました。これで綴ったコピー資料をさりげなく先生にお届けしたところ、めざとくその綴り方を見つけて下さいました。たった紙2枚しか綴じられないものでしたが、先生はちょっと悔しそうでした。数日後、先生が「もうちょっと綴じられるのがあったよ」と見せにこられました。負けず嫌いなのでしょう。

外国旅行のおみやげにも先生のセンスが光っていました。デンマークの小さな博物館の絵はがき。これは泥炭に埋もれたBog manのちょっとグロテスクな写真ですが、今でもその写真を講義で使わせてもらっています。もうひとつ、どこかの空港のキオスクで見つけてこられたドアノブにぶら下げる札。普通なら「不在」とか「Don't Disturb」と書いてあるものですが、私がいただいたのは「Caution! Workaholic Inside」というものでした。私に合ったものかどうかは？ですが、気に入ってしばらくぶら下げておりました。

先生はいつも持ち前の好奇心で何か新しいもの、おもしろいもの、気の利いたものを見つけてやろうとされていたように思います。きっと天国にもこんなへんな話があったぞとみんなに自慢するのを待ってられるような気がします。
井上 京

辻井先生は大地の如し

私とサロベツの出会いは 25 年以上前の偶然でした。国立公園サブレングャーの募集（ボランティア）で当時知名度が低く応募者が少なかった理由でサロベツを希望したのがきっかけです。いざ自然解説といっても湿原の「し」も知らないころ、一冊の本と出会いました。辻井先生の「湿原」です。サブタイトルの「成長する大地」は何とも不思議な響きだったのをよく覚えています。間違いなく私の人生を変えた本です。以後、公私にわたって辻井先生と長いお付き合いさせていただく中で、いつも「成長する大地」というフレーズが私の中で辻井先生と重なっていました。果てしなく大らかな“辻井大地”の上で、私自身が成長させてもらっていたということに、今更ながら気付かされる始末です。“辻井大地”という苗床の上で、いつまでもミズゴケのようにみずみずしく、そしてたくましくありたいと思うばかりです。辻井先生に心から感謝を込めて。

高田 雅之

卒論指導と辻井先生

当時北大農学部で独立した研究室で、とても魅力的な研究をされていた辻井先生に直接お願いに伺い、卒業論文をご指導いただきました。私の不十分な研究計画にも先生は「それ、面白いんじゃない」とか、「こんなこともやってみたらいいんじゃない」など、とても気さくなご助言をいただきました。先生とお話するたびに、その豊富な知識と好奇心に感動し、憧れました。それまでは、研究というと、とても堅苦しい印象しかなかったのですが、先生とお話をして、研究する際に一番大事なことを学ばせていただいたと思っています。ご多忙だった中、不躰な一学生のお願いにお付き合いいただいたこと、大変感謝しています。

高木健太郎



サロベツ湿原の代表的景観、エゾカンゾウの群生 （撮影：村元正己）



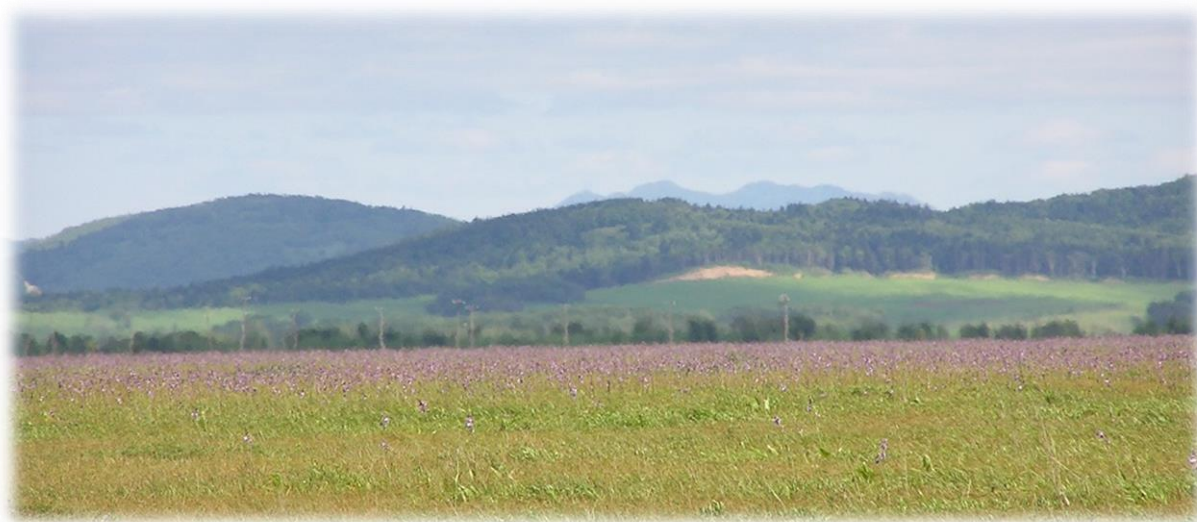
ショウジョウバカマの花
(神田長春写真集「サロベツの花と景観」より)

辻井先生に叱られたこと

辻井先生とのお付き合い、と言うよりも諸々なことで教えをいただくようになったのは 1980 年代の初めころに釧路湿原の国立公園化に向けての予備調査でご一緒させていただいたのがきっかけでした。その後、サロベツ湿原での環境省、文科省、農水省などの調査研究でもご指導いただく機会が多くなり、その博識と穏やかな人柄に引き寄せられるように北海道では霧多布湿原、中国四川省のチベット高原、黒竜江省の大興安嶺、吉林省の長白山山麓湿原などで調査研究をともにさせていただきました。

各地の調査研究での思い出は走馬灯のように頭をよぎりますが、その中で、無知な私の失敗をそれとなく叱って下さった話です。15 年ほど前になりますか、私は直接担当してはおりませんでしたが、サロベツ湿原のササ地拡大の対策としてビジターセンター近くでササの植生処理の実験をしたことがあります。表層はぎ取り処理をした区ではササは見事に駆除されており、そこに一本の赤紫色のぼんぼりの様な花がぽつんと咲いておりました。辻井先生とともにそこを通りがかった時に、思わず「あれ、こんなところに赤クローバが咲いている」とつぶやいてしまいましたが、辻井先生はすかさず「失礼な!!、あれはショウジョウバカマですよ」と訂正してくださいました。穏やかな辻井先生としてはやや語調がきつかったと記憶しています。「失礼な!!」にも、湿原植物に対する先生の想いがこもっていると感じております。長いお付き合いをいただいたなかで、まだまだ私の失敗談はありますが、ことを荒立てずに納めていただいた先生に感謝しつつ、あらためてご冥福をお祈りいたします。

高橋英紀



タチギボウシの大群落 (撮影：村元正己)

1. 会員からのたより

(1) いっぱいの水

環境クリエイト 橘 治国

いっぱいの水から、サロベツ湿原の湖沼を考えてみよう。

豊富自然学校の水質勉強会で湿原に流れる下エベコロベツ川でいっぱいの水を採り、みんなで顕微鏡をのぞいた。汚れたところに多い藍藻類（アオコ）は見え、清澄なところに棲む珪藻類（*Fragilaria* オビケイソウ, *Synedra* ハリケイソウ等）をみつけた。数は少なかったが、それでもみんなお喜び。一杯の水の色、そしてプランクトンからは、下エベコロベツの上流は、まだ都会の川のように汚れていないことがわかった。

稚咲内の湿原にある湖沼はどうだろう。南エリア山下さんの農場の北東にある沼（No.112）でいっぱいの水。水面が浅くなり、また水草が引っかかり採るのに苦労する。いっぱいの水も緑っぽい。多分、冬場の少雪と排水によって沼の水が少なくなり、泥からの溶出物で富栄養化し、プランクトンが増えたのだろう。最近の急激な水質悪化は、農家の排水だけではない。下エベコロベツ川とは全く異なる。

稚咲内北エリアの山下さんの農場の東にあるめがね沼は緑っぽくない。いっぱいの水には少し色がつくが、透明だ。多分、まわりの湿原から自然の水が入っているからだだろう。私どもの蛍光光度計での測定結果では、ほとんどが珪藻類という結果だった。少ないケイ酸を栄養として水質に対応して珪藻が増殖する。周囲には、ヨシが繁茂することとなる、素晴らしい湿原湖沼となっている。（写真は No.42 湖沼。稚咲内の典型的景色。）

今回は、いっぱいの水の透明さと色から、湿原の水環境を考えてみた。



稚咲内の沼 NPO 法人 EnVision 環境保全事務所 立木靖之氏撮影



顕微鏡観察 天北塾 村元正己氏撮影

(2) サロベツへの道（その2）熊との遭遇とモサロとの分かれ道

高橋 英紀

佐々木一家は下沼の中村さん宅で一泊し、翌朝、上サロベツに向かった佐々木さんは山のすそ野に沿った道を取ったに違いない。大正12年測図には国鉄下沼駅から3キロメートルほど北上したあたりから山のすそ野を通る道と山を越えてオネベツ川に沿いに上サロベツに向かう道がある。峠には栄松峠の名がついていた。しかしその道は今はない。

佐々木さんの記憶によれば、歩き続けて昼前ころ、今の25号あたりに来た時に、木に登っていた熊が突然目の前にどさりと降りてきたとのことである。当時の道は今の国道の東側に膨らむようにオネベツ川の沙流橋あたりを通っていた。25号あたりというと今の豊富小学校に近くである。ここまでの道のりは約8キロメートルで、9時に中村さん宅を発ったとすれば11時ころ現場に着くことになり、昼前と言う佐々木さんの記憶は確かである。

今でも道北には熊が多いが、当時は熊の居住空間に人が開拓に入ったと考えたほうが良さそうである。道北の熊の話で最も悲惨な熊被害として歴史に残っているのが苫前村三毛別(当時)で大正4年(1915年)12月初旬に起きた「三毛別熊事件」である。冬眠できなかった熊(穴持たず)が次々と開拓農家を襲い妊婦を含む7名が殺される悲惨な事件であった。この事件は戸川幸夫の動物文学シリーズ中に「熊風」として載っている。平成7-8年にかけて修士論文研究として稚内湖沼群の消長を研究し、その後の林野庁による調査研究の礎を築いた川鍋礼子さんが、この小説を研究を始める前に読んでいたらとても研究をする気にならなかったろうと言っていたのを思い出す。それほど悲惨な獣害であった。

熊に出会った佐々木さんは、そのまま北に進む、大正12年の地図には道路沿いに10軒ほどの民家が記入されているが、佐々木さんが到着した明治40年にはほとんど家もなかったのであろう。次のような記載がある。「ここから600メートル来て右に曲がる道路がある。目印に15尺ほどの細い木を立ててある。これが我らが行くペン

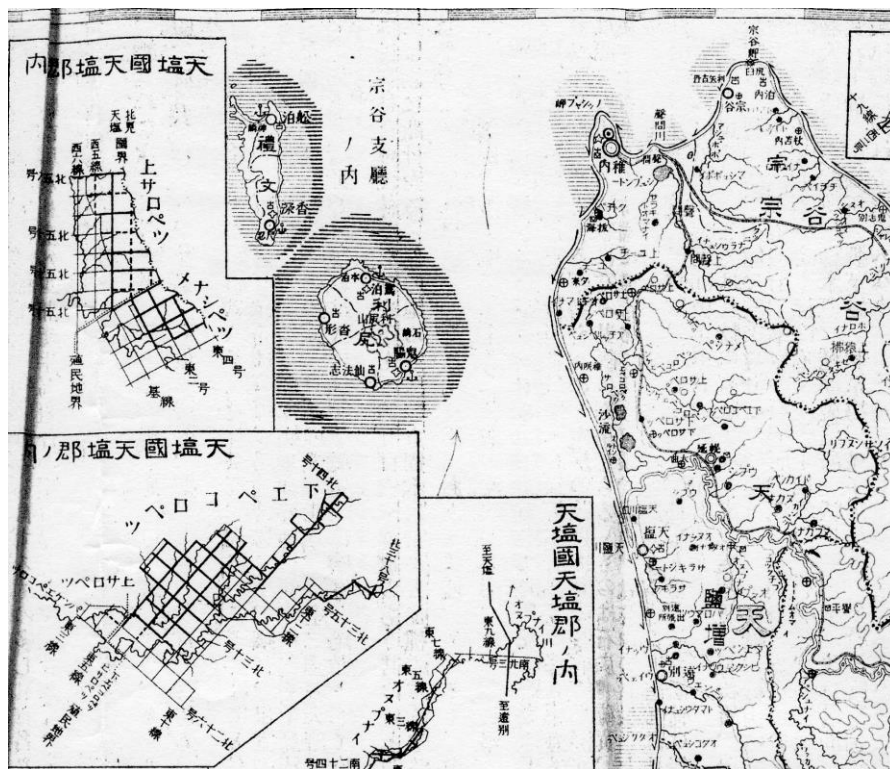


図-1 明治政府発行の北海道開拓案内より

ケエベコロベツの入り口である。危うく知らずに通り過ぎようとする時、折よく人が来て」道を教えてくれたとある。いまの豊富橋を渡ってすぐの信号付近で出会ったのであろう。その人の教えてくれる通り、道を右に曲がって4キロメートルほど歩いて無事に栗城さん宅にたどり着いた。そのまま真っすぐ進んでいたらモサロ（今の芦川）に迷い込んでしまったであろうと述懐している。距離から言うと道道84号線に沿って豊富温泉の少し手前くらいのところであったのであろう。「この日は明治40年6月3日である」との記述があった。5月21日に福島県会津の山奥を発ってから2週間弱の旅であったが、その間の苦労は言葉では言い尽くせないものであったと思う。

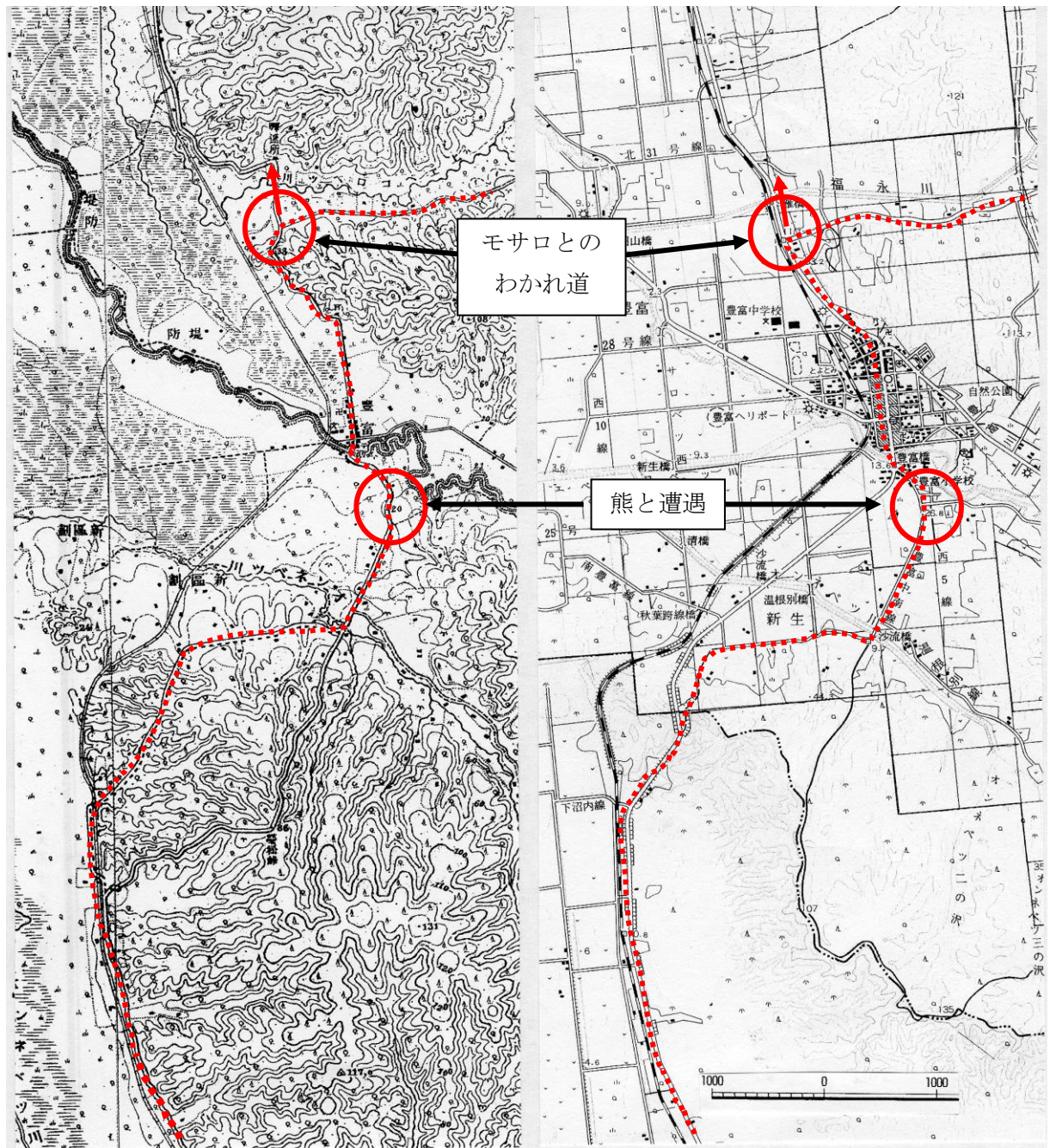


図-2 大正12年測図地形図（左）、昭和47年編集地形図（右）と佐々木一家が歩いてペンケエベコロベツにたどり着いた道

2. 活動報告 サロベツ湿原保全ボランティア活動とウォーキング、2012 年夏

高橋英紀、小川 巖、神谷光彦

日 時：2012 年 8 月 4 日、5 日

活動内容：サロベツ学会とエコ・ネットワークの共催で「サロベツ湿原の保全と大人と子供のための環境教育、2012 年夏」の活動を行いました。札幌からの交通費（貸切バス）と豊富セミナーハウスの部屋代を NPO 法人北海道カリマンタン交流協会からの援助で、インドネシアから北大に留学している学生やその家族、札幌近郊のボランティアグループ、総勢 25 名（インドネシア人：19 名、そのうち 10 歳以下の子供 5 名、日本人 6 名、そのうち 10 歳以下の子供 1 名）の参加がありました。4 日午後の湿原保全ボランティアでは、インドネシア、日本の大人達がササ群落まで歩き、2 人一組で地下水位の測定を行ない、子供たちと母親はビジターセンター内や木道で、クイズ形式を取り入れたサロベツの自然学習を行いました。



写真-1 子供たちはお母さんやお兄さん（？）と湿原植物の観察会。



写真-2 サロベツ湿原特別保護地区のササ群落で地下水位観測をするインドネシア留学生の皆さん

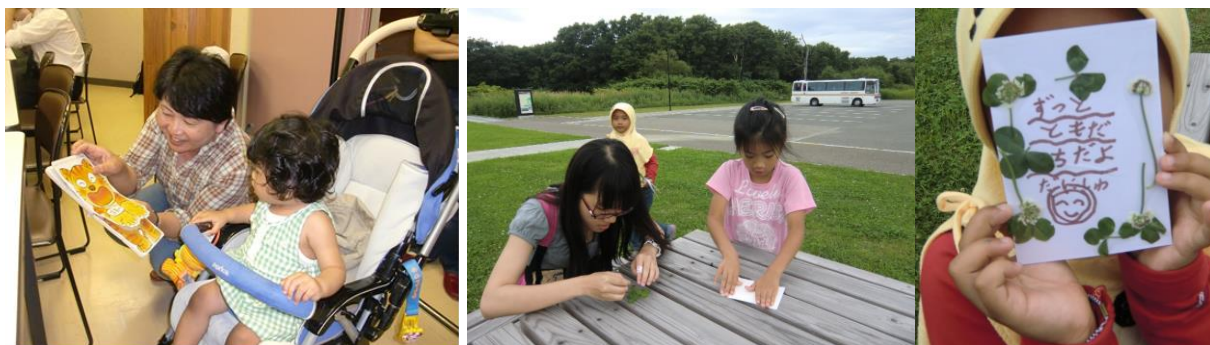


写真-3 絵本を読んでもらう。 折り紙で何をつくる。 こんなのできた

5日午前はバスに乗って大規模草地や兜沼など町内の観光スポットを巡るチームと豊富町市街地から温泉まで歩くウォーキングのチームに分かれて、それぞれの活動を楽しんでもらいました。

8月のこの時期は、イスラム教のラマダン（断食）月なので、朝食は2時30分以前、夕食は午後7時以降との条件がありましたが、村元ご夫妻に奮闘して対応していただきました。



写真-4 サロベツ湿原ビジターセンター前にて



写真-5 食事作りの村元さんご夫妻と食事をいただく留学生の皆さん

成果：自然と触れあえる楽しみは老若男女、国籍、宗教を越えたものであることを実感しました。

課題：食材に気をつけなければなりません。事前に情報を集めておく必要があります。今回は祈りの部屋を用意しましたが、祈りのための時間づくりと、小部屋の用意が課題です。

御礼：やはり地元の皆様の協力がなければ実施は不可能でした。心から感謝申し上げます。

3. 会議報告 平成24年度 サロベツ学会総会議事録

場 所 天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

開催日 平成24年11月6日（火）午後1時30分～午後3時ころ

総務担当（高橋）より、総会出席者数、委任状について報告があり、開会が宣言された。

1. 議長選出

総務担当（高橋）より、稲垣会長を議長として推薦があり、異議なく認められた。

議 題

（1）平成23年度事業報告

総務担当（高橋）より平成23年度事業の 1)サロベツ学会総会の開催、2)湿原保全・再生活動を通じた環境教育の実施、3)広報誌の発行、4)上サロベツ自然再生事業の諸活動への協力の4項目について報告があった。議長が賛否につき議場に質疑を求めたところ特に質問・意見はなく、議長が賛否につき議場にはかったところ、満場一致で承認された。

（2）平成23年度会計報告

会計担当（稲垣順子）より平成23年度会計の報告が行われ、引き続き会計監査（神谷光彦、佐々木 淳）の結果が報告された。議長が賛否につき議場に質疑を求めたところ特に質問・意見はなく、議長が賛否につき議場にはかったところ、満場一致で承認された。

（3）平成24年度事業計画

総務担当（高橋）より平成24年度事業計画の 1)サロベツ学会総会の開催、2)湿原保全・再生活動を通じた環境教育の実施、3)広報誌の発行、4)上サロベツ自然再生事業の諸活動への協力の4項目について説明があった。その後、議長が賛否につき議場にはかったところ特に質問・意見はなく、満場一致で承認された。

（4）平成24年度予算

会計担当（稲垣順子）より平成24年度予算案の提案があった。議長が議場に質疑を求めたところ、会費が安すぎるので会費値上げをしてはどうかとの意見が出されたが、現状でとくに値上げの必要性がないので現状維持で良いとの意見も出された。その後、議長が賛否につき議場にはかったところ、現状維持が満場一致で承認された。なお、会費の納入状況について出席者から質問があった。3－4年分の会費滞納者にはメール等で支払いの依頼をすることとした。

（5）報告事項

1) 市民参加型サロベツ湿原保全グループ 第5回活動

平成24年8月に実施した第5回の活動について担当した高橋総務から報告があった。それに対し、市民参加環境保全に合わせて、単なるウォーキングだけではなく、特徴ある自然景観地域の探索など、参加者が興味を持つイベントと組み合わせるなどの工夫が必要との意見が出された。さらに北大中川演習林内山地にある湿原などが候補として上がり、平成25年度の事業で実施を検討することとした。

2) サロベツ学会会報「サロベツだより」No-3の発行

編集担当（高橋）より3月下旬を目標に、記事を募集・編集するので協力をお願いするむね依頼があった。

以上

平成 23 年度（2011 年）サロベツ学会事業報告

1. サロベツ学会総会の開催

- (1) 日時：平成 23 年（2011 年）10 月 8 日（土） 13 時～14 時 30 分
- (2) 場所：天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

2. 湿原保全・再生活動を通じた環境教育の実施

2-1. ササ群落地の地下水位、湿地溝位置、植生などの調査実施

日時：7 月 14 日～16 日

場所：サロベツ湿原ササ群落地、参加者：5 名

2-2. 第 5 回市民参加湿原保全の実施

日時：10 月 8 日、10 時～12 時

場所：サロベツ湿原ササ群落地、参加者：9 名

2-3. サロベツ湿原保全推進協議会（アサヒビール社環境基金）活動報告会開催

日時：10 月 8 日、14 時 30 分～15 時 30 分

場所：法昌寺、参加者：9 名

2-4. 野鳥観察会

日時：10 月 8 日、15 時 30 分～16 時 30 分

場所：下沼付近牧草地、参加者：8 名

3. 広報誌の発行

平成 24（2012）年 5 月、会誌「サロベツだより」第 3 号を刊行し、会員に配布した

4. 上サロベツ自然再生事業の諸活動への協力

- ・市民参加保全(サロベツ学会ふりかえりシート)を提出した (H23. 11. 22)
- ・総会および報告会、野鳥観察会(サロベツ学会ふりかえりシート)を提出した (H23. 11. 22)

以上

平成 24 年度（2012 年）サロベツ学会事業計画

1. サロベツ学会運営委員会・総会の開催

- (1) 日時：平成 24 年（2012 年）11 月 6 日 13 時－14 時
- (2) 場所：天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

2. 湿原保全・再生活動を通じた環境教育の実施

- 2-1. 「サロベツ湿原の保全と大人と子供のための環境教育とウォーキング、2012 年夏」を実施（8 月 4 日、5 日）。
- 2-2. ササ群落地の地下水位、湿地溝位地、植生などの調査実施
（10 月 23 日、24 日、11 月 5 日、6 日）
- 2-3. 湿地溝流量測定用三角堰の設置申請書を環境省に提出（10 月 12 日）

3. 広報誌の発行

内容：地域の話題や投稿原稿、市民参加湿原保全とウォーキングなどの活動報告等
時期：平成 25 年 3 月ころ

4. 上サロベツ自然再生事業の諸活動への協力

- 4-1. エコモープロジェクトへの継続申請（10 月 30 日）
- 4-2. 湿原保全再生活動を通じた環境教育をエコモーふりかえりに報告（10 月 30 日）
- 4-3. 学会総会実施をエコモーふりかえりに報告

以上

平成23年度「学会活動に係る事業」会計収支決算書

サロベツ学会

単位：円 △：減

「学会活動に係る事業」会計	予 算	決 算	増減	備 考
I. 収入の部				
1. 財産運用収入	0	0		
2. 会費収入	26,000	13,000	△ 13,000	20～22年度 2,000円
3. 事業収入	0	0	0	23年度 6,500円
1) 参加費	0	0	0	24～32年度 4,500円
4. 補助金収入	0	0	0	
5. 事業受託収入	0	0	0	
6. 繰越金	22,912	22,912	0	切手@80円×74枚 (佐藤吉一氏寄贈)
7. その他収入	0	7	7	利息
当期収入合計 (A)	48,912	35,919	△ 12,993	
II. 支出の部				
1. 事業費				
1) 総会・懇談会等の開催	10,000	0	△ 10,000	
2) 会誌の発行	15,000	0	△ 15,000	
3) 市民参加保全事業	0	0	0	
2. 事務・管理費				
1) 通信・運搬費	3,000	0	△ 3,000	※切手 7 枚使用 (残62枚)
2) 文房具等消耗品	5,000	0	△ 5,000	
当期支出合計 (B)	48,912	0	△ 48,912	
当期収支差額 (A) - (B)	0	35,919	35,919	
設立時資産有高	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	35,919	35,919	

平成24年度「学会活動に係る事業」会計収支予算書

単位：円

科 目	金 額	備 考
I. 収入の部		
1. 財産運用収入	0	
2. 会費収入	26,000	@500円×52人
3. 事業収入	0	
4. 補助金収入	0	
5. 事業受託収入	0	
6. 寄付金収入	0	(切手@80円×62枚繰越)
7. 繰越金	35,919	平成23年度より
当期収入合計 (A)	61,919	
II. 支出の部		
1. 事業費		
1) 総会・懇談会等の開催	10,000	会場費、資料作成、
2) 会誌の発行	15,000	印刷費(紙代、インク代)
3) 市民参加保全事業	30,000	
2. 事務・管理費		
1) 通信・運搬費	1,000	送料
2) 文房具等消耗品	5,000	封筒、ファイル
3) 予備費	919	
当期支出合計 (B)	61,919	
当期収支差額 (A)-(B)	0	
設立時資産有高	0	
次期繰越収支差額	0	

